日本小児泌尿器科学会雑誌 投稿規定

掲載対象

日本小児泌尿器科学会雑誌は、小児泌尿器科学全般 に関連する学術性の高い論文を掲載する.

構成

本誌は泌尿器科学に関連した(1) 原著論文(2) 症例報告(3) 手技・器具等の開発・工夫(「手技の開発」)(4) 総説(一部,編集委員会からの依頼による)(5) 看護および(6) その他の公報をもって構成する.英文論文の投稿も可とする.

投稿要領

- 1. 投稿資格:筆頭著者が本学会会員であることを要する。
- 2. 独自性:投稿原稿は他の学術誌に掲載済・掲載予 定投稿中であってはならない.
- 3. 倫理性:投稿原稿の内容は倫理性に配慮し、臨床研究については「ヘルシンキ宣言」および国が策定した医学研究に関する最新の法令や指針等を遵守する.動物実験については「大学における動物実験の実施に関する基本的な考え方について(日本学術審議会)」およびこれらに準ずる指針の規定を遵守する.臨床研究・動物実験ともに実施施設の倫理委員会等の規定に従い、倫理委員会等の承認をうけて実施したことを本文中に記載するものとする.症例報告については、匿名性を十分担保するとともに、原則として本人(あるいはその代諾者)から同意を得たうえで実施する.
- 4. 原稿の書式:
- 1)用紙: A4とする.
- 2) 頁数:表紙を1頁目とし, 頁数を各頁の下端中央部に 記入する.
- 3) 英文: 英文部分はダブルスペースでタイプする.
- 4)和文:現代かなづかい、当用漢字を用いた横書きとし、ダブルスペースでタイプする。なお外国語の表記は人名・地名などの固有名詞はなるべく原字を用いて最初の1字のみ大文字とし、普通名詞は全部小文字とする。日本字で書くときはカタカナとする。年号は西暦を用いる。数字はすべて算用数字を用い、略号は次のようにする。3か月、1cm²、1L、1mL、1g、mg/dL、37℃等。
- 5) 原稿の長さ:全体の長さ(表紙から図表まで)は原著においては刷上り6ページ以内(約18,000字), 症例報告においては刷上り2ページ以内(約6,000字), 手技の開発, 看護では刷上り3ページ以内(約10,000字)とするが簡潔な記述が望ましい. 英文については1ページ当たり約800wordsとして全体の長さは和文原稿に準ずる. なお, 図表は各1点を400字と換算する. 総説については, 特に制限を設けない.
- 5. 原稿の形式:以下の順序と形式で記述する.
- (1)和文原稿
- 1)和文表紙:表題,所属機関名,著者名,連絡先(住所,氏名,電話番号,FAX番号,E-mailアドレス)の順に記載する.
- 2)英文表紙: 表題,著者名,所属機関名,の順に記載する.

- 3) 英文抄録: 抄録本文(300語以内), 3語以内のkey words(英文)の順に記載する.
- 4)和文要旨:要旨(600字以内), 3語以内のキーワード (和文)の順に記載する. 英文抄録・和文要旨には, 目的・方法・結果・結論を明記する.
- 5)本文:原著では緒言,対象・方法,結果,考察,結論,謝辞の順,症例報告では緒言,症例,考察,謝辞の順,手技の開発では,緒言,手技・工夫,考察,謝辞の順,看護では,緒言,方法(看護),工夫および結果,考察,謝辞とし項目ごとに頁を改める。謝辞は研究・論文作成に関する助成元,協力者につき簡潔に記載する.
- (2) 英文原稿
- 1)表紙:表題,著者名,所属機関名,key words(3語 以内),連絡先(住所,氏名,電話番号,FAX番号,E-mailアドレス)の順に記載する.
- 2) 抄録: 抄録本文(300語以内)に記載する.
- 3) 本文:和文原稿に準ずる.
- 4) 英文校閲を受けた証明書を添付すること.
- (3) 文献: 引用文献は必要最小限にとどめる. 引用のつ ど本文中に番号をうち、末尾に引用順に下記の書式に したがって一括して記載する. 文献の著者は3名まで を明記し、4名以上の場合は 'et al' または '他' とす る.
- 雑誌の場合:著者名:題名. 雑誌名 発行年;巻:最初頁-最終頁.
- 例1) Mizuno K, Hayashi Y, Kojima Y, et al: Early orchiopexy improves subsequent testicular development and spermatogenesis in the experimental cryptorchid rat model. J Urol 2008; 179: 1195-1199.
- 例2) 丸山哲史, 西尾英紀, 守時良演, 他:膀胱尿管逆流術後の尿中N-アセチル-β-D-グルコサミニダーゼ 高値持続と分腎機能低下. 日小泌会誌 2017; 26: 47-54.
- 単行本の場合:著者名:題名. 書名, 第何版, 発行 社, 発行地, 発行年, 引用頁.
- 例3) Husmann D: Pediatric genitourinary trauma. In Campbell-Walsh Urology, 10th ed, Saunders Elsevier, Philadelphia, 2012, pp3731-3753.
- 例4) 林祐太郎, 小島祥敬, 水野健太郎:遠位型尿道下裂に対する形成術. 小児泌尿器科手術, 第1版, メジカルビュー社, 東京, 2010, pp117-127.
- WEBの場合:著者名. "ページ名". サイト名. 更新日 (可能であれば), 入手先URL, (参照日).
- 例5) International Organization for Standardization. "ISO 13485 Medical devices". International Organization for Standardization. https://www.iso.org/iso-13485-medical-devices.html, (accessed 2024-03-20).
- 例6)科学技術振興機構. "参考文献の役割と書き方". 科学技術情報流通技術基準ホームページ. 2011-03. https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/12003258/

- jipsti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST_booklet2011.pdf, (参 照2024-03-20).
- (4)表:表は本文の記述との重複であってはならない.表題を上段に明記し、縦罫線の使用を避け、1ページの紙面に許される字数以内におさめる.また各表には表1、表2のように順番をつける.
- (5) 図の説明:図の表題と説明文を別紙にまとめて添付する.
- (6)図:図は、そのまま印刷できる明瞭なものとする。図はカラー印刷したものとPDFファイルまたはJPEGファイルで電子ファイル(CDまたはUSBメモリ)に保存したもの、同封して下記に送付する。また各図には図1、図2のように順番をつける。
- 6. 投稿時の添付書類:
- 1)送付状:投稿時には、投稿の旨と投稿原稿が他誌に 掲載済・掲載予定・投稿中でない旨を述べた著者全 員の署名(自署)が行われた送付状を添付する.
- 2)投稿時チェックリスト:筆頭著者においては、別添の「投稿時チェックリスト」に従い原稿のチェックを行い、署名(自署)のうえ添付する. 論文責任者の署名(自署)も行う.
- 3)COI申告書:別紙のCOI申告書を提出
- 7. 投稿先:郵送の場合は書留またはレターパックとし、電子化された原稿(OS・使用ソフトを明記したCDまたは USBメモリー(10MB以下))、送付状、COI申告書、投稿時チェックリストを下記宛に送付する。メールでの 投稿も郵送と同様のファイル(計10MB以下)を以下 Emailアドレス宛に送信する。事務局への送信後10日 経っても連絡がない場合は事務局に問い合わせること

〒542-0075 大阪市中央区難波千日前5-19 河原センタービル5階 株式会社PLANNING FOREST内

日本小児泌尿器科学会編集委員会

TEL: 06-6630-9002 FAX: 06-6630-9003

Email:jspu@p-forest.co.jp

原則として原稿および電子ファイル(CDまたはUSBメモリ)を返却しない。また万一の事故にそなえて必ずコピーを手元に控えておく。

- 8. 審 査:原稿はその内容・形式などにつき2名以上の レフリーにより審査され、編集委員会の審議 を経て、適格とされたものが受理される.
- 9. 校 正:初校は著者校正とする.校正刷りは原稿とと もに編集者指定の期日内に返送する.なお 編集委員会の責任において若干の字句の訂 正を行うことがある.
- 10. 別 刷:筆頭著者には掲載誌1部と別刷30部を贈呈 する. 別刷をそれ以上希望の方には有料に て作製する. その場合は50部単位とし校正 刷り返送時に申し込む.
- 11. 掲載料: 超過分の掲載料は1ページにつき5,000円とする。 また、カラー写真は 1枚当たり5,000円とし、白黒写真、図表、別刷(無料贈呈以

外)などの料金についても、別に実費を申し 受ける.

12. 著作権: 当誌に掲載する著作物の複写, 複製, 転載, 翻訳, データベースへのとりこみおよび送信などの権利は, 日本小児泌尿器科学会に帰属する. 費用が発生する場合があるので, 学会事務局に問い合わせし指示に従い申請を行うこと.

図表の転載に際しては、原則として転載元 の改定は認めない、Webサイトへの掲載の 場合、その期間は1年とし、1年を経過した 場合は1年毎に再申請すること。

13. 利益相反:著者全員について,日本小児泌尿器科学会ホームページが定める"臨床研究の利益相反に関する指針"に従い,利益相反状態を明らかにする必要がある。著者全員に関する書類の提出を必要とするので,投稿時に別紙COIを提出すること.

投稿時チェックリスト(和文原稿)

日本小児泌尿器科学会雑誌に論文投稿の際には、以下 1~12 の項目をご確認のうえ、該当する回答に ○印をつけてください.

1. ホームページの『投稿のための手引き』を読了し、理解しましたか	はい・ いいえ
2. 筆頭著者は日本小児泌尿器科学会の会員ですか	はい・ いいえ
3. 和文要旨および英文抄録の字数制限は守られていますか (和文要旨:文字数 600 字以内 英文抄録:単語数 300 語以内)	はい・ いいえ
4. 和文要旨と英文抄録は整合していますか	はい・ いいえ
5. 順序と形式は投稿規定に適合していますか	はい・ いいえ
6. 略号は投稿規定に適合していますか	はい・ いいえ
7. 文献は投稿規定の記載例に従って正しく記載されていますか	はい・ いいえ
8. 和文キーワードと英文 key words の内容は同じですか	はい・ いいえ
9. 論文末尾に利益相反のすべての開示事項を明記されましたか (利益相反状態が何もない場合もその旨明記してください)	はい・ いいえ
10. 研究内容の倫理的側面と患者プライバシーの保護について、法令や指針等が遵守されていますか	はい・ いいえ
11. 倫理委員会などの承認の必要がある研究ですか (「はい」の場合、以下 11-1. および 11-2. についても回答ください)	はい・ いいえ
11-1. 当該施設の倫理委員会などの審査・承認を得ていますか	はい・ いいえ
11-2. 倫理委員会による審査・承認を得ている場合、承認番号を右欄に記載ください	承認番号: ()
12. 共著者は全員原稿をチェックしましたか	はい・ いいえ
13. 責任共著者による校閲(最終確認)は受けられましたか	はい・ いいえ

私は上記チェックリストに従い投稿論文の確認を行い、上記内容に相違ないことを証明いたします。

筆頭著者名(自署):

論文責任者名(自署):

(筆頭著者が論文責任者を兼ねる場合には、筆頭著者以外にもう1名論文責任者を記載する)

投稿時チェックリスト (英文原稿)

日本小児泌尿器科学会雑誌に論文投稿の際には、以下 1~10 の項目をご確認のうえ、該当する回答に 〇印をつけてください。

1. ホームページの『投稿のための手引き』を読了し、理解しましたか	はい・ いいえ
2. 筆頭著者は日本小児泌尿器科学会の会員ですか	はい・ いいえ
3. 英文抄録の字数制限は守られていますか(単語数 300 語以内)	はい・ いいえ
4. 英文抄録および本文のネイティブチェックは済んでいますか	はい・ いいえ
5. 順序と形式は投稿規定に適合していますか	はい・ いいえ
6. 文献は投稿規定の記載例に従って正しく記載されていますか	はい・ いいえ
7. 論文末尾に利益相反のすべての開示事項を明記されましたか (利益相反状態が何もない場合もその旨明記してください)	はい・ いいえ
8. 研究内容の倫理的側面と患者プライバシーの保護について、法令や指針等が 遵守されていますか	はい・ いいえ
9. 倫理委員会などの承認の必要がある研究ですか (「はい」の場合、以下 8-1. および 8-2. についても回答ください)	はい・ いいえ
9-1. 当該施設の倫理委員会などの審査・承認を得ていますか	はい・ いいえ
9-2. 倫理委員会による審査・承認を得ている場合、承認番号を右欄に記載ください	承認番号: ()
10. 共著者は全員原稿をチェックしましたか	はい・ いいえ
11. 責任共著者による校閲(最終確認)は受けられましたか	はい・ いいえ

私は上記チェックリストに従い投稿論文の確認を行い、上記内容に相違ないことを証明いたします.

筆頭著者名(自署):

論文責任者名(自署):

(筆頭著者が論文責任者を兼ねる場合には、筆頭著者以外にもう1名論文責任者を記載する)

日本小児泌尿器科学会雑誌へ論文投稿する人のために ~日本小児泌尿器科学会雑誌編集委員会より~

序文

日本小児救急医学会編集委員会では2020年に投稿支援推進小委員会を立ち上げて若手会員の論文投稿を促進するための論文作成指針「日本小児救急医学会雑誌へ論文投稿する人のために」、論文提出前のチェックリスト、論文投稿用のテンプレートを作成し、ホームページに公開し(https://www.convention-axcess.com/jsep/information/post_magazine.html)¹⁾、日本小児救急医学会雑誌にも掲載している²⁾、本稿の内容は、日本小児救急医学会から転載の許可を得て、日本小児泌尿器科学会編集委員会が日本小児泌尿器科学会雑誌への投稿者に向けての最小限の変更を加えたものである。この度の転載について日本小児救急医学会のご厚意に感謝の意を表する.

本稿では、日本小児泌尿器科学会雑誌(本誌)へ論文を投稿する際、論文執筆がほぼ初めてであるにも関わらず、論文の執筆指導を受けることが難しい状況にある投稿者が、論文投稿時に具体的にどのようなことを考慮すればいいのかという指針について実践的に解説する.

まず、求められるのは、投稿規定をよく読んで順守することである。ただし、投稿規定は論文執筆に関する全てのことが詳細に記載されているわけではない。従って、本稿では本誌への投稿に関する一般的な考え方も加えて解説する。さらに、投稿後の論文がどのような過程を経て査読され、論文受理となるかその過程や査読への対応についても触れる

編集委員会では、本誌への論文投稿に関して、より投稿しやすくなるような指針が必要であるという認識を共有している。今回、その一環として、本稿を作成した。投稿者はチェックリストの項目を1つ1つ満たすように論文を作成することにより投稿論文としての最低限の体裁が整えられるであろう。

また、論文といえども日本語の文章である以上、本文は 複数の段落の連続により構成され、段落の冒頭は常に全 角1文字分は下げてから開始されていることが不文律であ る. さらに、日本語の文章の書き方としては、段落と段落 の間にはスペース(1行分)を挿入しないことが適切であ る.

そのように体裁が整えられた投稿論文であれば、査読者は論文の内容自体の評価に専念できる。編集委員会としては、論文がこのような過程を経て作成されることで、初回投稿論文が今まで以上に質の高いものとなることを期待している。以下、投稿規定に沿って概説する。

投稿規定について

繰り返しになるが、あらかじめ投稿規定をくまなく読み、それを順守することが基本である。どの医学雑誌でも同様であるが、投稿規定を満たさない投稿論文はそもそも受け付けてもらえない。なお、チェックリストは投稿規定をほぼ網羅しており、チェックリストの項目を確認していくことで論文の体裁は自然と整うことになるだろう。

1. 投稿内容について 論文として未発表のものに限られる.

2. 投稿様式について

原著論文,症例報告,手技・器具等の開発,総説, 看護,その他の公報6種類がある.編集委員会が最終決 定する.

3. 投稿資格について

共著者全員の自筆承諾書が必要である。著者となることの重要性を認識する。共著者の果たす役割を後述するような方法で十分に検討する³).

4. 論文の採否について 2名の査読後、編集委員会が判断する.

5. 論文の構成と長さについて

題名について

文字数の規定はない。よく検討し、文章全体を明確かつ簡潔に示す印象的なものにすることが望ましい。題名があまり短すぎるのも、長すぎるのも良くない。題名は内容を的確に、かつできるだけコンパクトに表現する。省略形は避けるべきである⁴)。

要旨について

要旨の中で示す結果は具体的な数字を提示する. 具体的な数字を出して実際に実施した研究結果がわかりやすい記述にするべきである. 読者は具体的な効果や影響を求めている⁵⁾.

文字数の計算方法について

原著の場合,題名・著者名・所属施設名の和文英文併記で400文字,和文要旨で600文字,英文要旨で300 words,合計1,300文字は必要である。また,図,表,写真を1つずつ掲載すると、それぞれ400文字換算となり合計1,200文字となる。よって、この場合に本文(引用文献までを本文とする)は18,000-2,500=15,500文字以内で記載する必要があり、文字数厳守は必須である。また、編集者は限られた紙面のスペースの中にできるだけ多くの論文を掲載したいと考えている6)ことを念頭に置く。著者が発見した事実を述べるために規定されている文字数で収まりきらないことはあり得えない。ノーベル賞受賞となったワトソンとクリックのDNAの2重らせんの論文は2ページであった。伝えることに優先順位を付けて規定文字数内にとどめることによりメッセージが鮮明となり、洗練された論文となる

例外として、査読者から議論の追加を求められた結果、規定された文字数を超えるということがまれにあり得る。ただ、その場合においても規定された文字数を大きく上回ることは極めてまれである。

6. 原稿の書き方について

投稿規定の書き方の項目を1つ1つ守る必要がある.

図. 表について4,6,7,8)

図表は、その1つで読者に対して完結した結果を説明 することが可能でなければならない. 図表で略語を用いる 場合、本文中で断っていても、改めて断ることを忘れな い.

図は、本来図の部分だけを指し、タイトル、説明は含まれない。 投稿規定には言及していないが、引用文献の後にページを変えて、図のタイトルと説明を記載する.

表には、タイトルと説明が含まれる。表はデータ要素 (値)の集合を垂直な列と水平の行のモデルで構成したものである。よって、表は文字・数字と罫線だけで構成されたもので、それ以外は全て図として扱う。表と図を比較した場合、同じスペースであれば、提供する情報量は表の方が圧倒的に多く、基本的に図よりも表の方が使いやすいが、時間的変化がある臨床経過や数的変化がある情報などは視覚的な図の方が理解しやすい。単行本や商業雑誌などでは1行ごとの背景に着色しているが、それは出版社の作業であり、学術雑誌の投稿では投稿者が表に色を付けることは避ける。過去の本誌には様々な形式の表が存在しているが、本来、表中に縦の罫線を書くことはない。

7. 原著の本文の書き方について

学会発表のスライドの文言をそのまま移行した箇条書きの記載が見受けられるが、きちんとした文章を書く必要がある。体言止めは多用しない⁹⁾. 投稿論文の並びは、症例報告では、「緒言、症例、考察、結論、利益相反、引用文献、図のタイトルと説明、図、表」の順に、原著論文では、「緒言、目的、方法、結果、考察、結論、利益相反、引用文献、図のタイトルと説明、図、表」の順となる。

緒言について

投稿論文に関連した過去の報告事項(これまでにわかっていること)を引用文献を付して簡潔に紹介した上で,原著論文では今回報告する研究を企画,実行した理由(動機付けになったこと),症例報告では今回報告する症例を論文に掲載する意義を明確に記載する. さらに,原著論文ではこの項の最後あるいは独立項として今回報告する研究の目的を明確に記載する必要がある.

方法について

統計解析の方法は、本来は研究計画立案の時点で既に決定されている。よって、施行した統計の解析方法は、方法の項に記載する。時に新たな統計解析を考察で追加した旨の論文などを見かけるが、どのような解析を行ったかの文章は方法の項に記載するべき事柄である。

結果について

この項では結果だけを述べる. 時に解釈が結果に混在

する論文をみかけることがあるが、あくまでも結果と解釈は 別物であり、解釈は考察に記載する。また、結果の全て を論文中に記述してしまうということは、むしろ意味のある データを識別できていないことを示している。「愚かな人は 事実を収集するが、賢い人は事実を選別する」という文言 がある4)ことを心に留めて結果の記載をする。

考察について

査読者が考察の分量を「少ない」と評価をすることはまれである。 逆に「考察が多い」と評価する場合の方が圧倒的に多い。 ただし、 査読において、 考察の内容が不足していることを指摘することももちろんある。 著者が発見した知見を文章にする際は、 できるだけ簡潔に記載するように心がけることが大切である。 ある事実を強く主張しようとして、 何か他の事実を誤りのように思わせるのは間違いである。4.

8. 文献について

文献数は原著論文では必要最小限(原則30編以内)にとどめる。論文を書くために多くの論文を読むと、できるだけ多数の引用文献を記載したくなるが、重要な論文を選別して引用する。偏った文献ばかりを引用して適切な文献を引用していない場合、その論文の結論そのものの信頼性が問われることになる。可能な限り、5年以内に発表された原著論文、最新のメタ解析、系統的レビューを優先して引用する¹⁰)。

9. 文献の記載について

引用文献が投稿規定通り誤りなく書かれている論文は、 内容自体もほぼ受理に近いレベルであることが多い^{6,11)}. 反対に、引用文献の記載に誤りが多い論文は、受理に遠い位置にあることが多い。他の投稿規定も守られていない、上級医が適切に指導していない、ということが容易に推測されるからである。1文字の間違いもなく記載する¹¹⁾気概が必要である。記載方法は、肩付けした引用番号@を^{®)}と書く、番号は登場順にする。また、誌名略記は医学中央雑誌刊行会、医学中央雑誌収載目録略名表およびIndex Medicusに準ずる(https://www.jamas.or.jp/shusaishi/search/を参考)。

10. キーワードについて

キーワードとして選択するのはあくまでも単語である。例えば、「小児の水腎症」をキーワードにする著者がいるが、そのような場合、「小児」「水腎症」と単語に分けることが基本である。「〇〇の〇〇」という文言は、基本的にキーワードにはならない。ただし、過去の本誌では「〇〇の〇〇」がキーワードになっていることもまれにあるが、可能な限り避けることが賢明である。

11. 倫理規定について

ヒトを対象とした研究は、ヘルシンキ宣言に基づく、所属研究機関あるいは所属施設の倫理委員会、治験審査委員会ないしそれに準ずる機関の承認を得ていることを論

文中に必ず記載するとともに、その承認番号も付記する. 個人情報は匿名化する. 症例報告においてもこれに準ずる. なお, 患者が未成年(20歳未満)の場合は親権者から同意を得る. 動物を対象とした研究も倫理委員会などの承認を得る.

倫理委員会等の承認に関する具体的な記載例としては、原著では「本研究は○○倫理委員会(○○治験審査委員会)の承認を得た(承認番号:○○、承認番号がない場合は承認を得た年月日)」となる。症例報告では「本症例の論文投稿に関して親権者から同意を得た。」あるいは「本症例の論文投稿に関して○○倫理委員会(○○治験審査委員会)の承認を得た(承認番号:○○、承認番号がない場合は承認を得た年月日)」などとなり、両者を併記してもよい。記載箇所は、論文本文の後が適切である。

また、論文本文の記載の仕方についても倫理的な配慮が求められる。特に症例報告では、症例報告の意義を損ねない範囲で、できる限り個人が特定されないように以下のような方法での記載が求められる。

- (ア)個人特定可能な氏名,入院番号,イニシャルまたは「呼び名」は記載しない.
- (イ)日付は,第○病日や受診○日前,入院○日目等の記載となる.また,発表者の関わり開始をX日とし, X-1日, X+1日といった記載を用いてもよい.
- (ウ)顔写真を提示する際には目を隠すなど、個人を特定できないように配慮する.
- (エ)症例を特定できる画像情報, 剖検等に含まれる番号などは削除する.

12. 利益相反について

結論の項の後には、利益相反の開示を行う.

13. 筆頭著者・共著者の役割について

筆頭著者および共著者の役割を医学雑誌編集者国際 委員会(International Committee of Medical Journal Editors: ICMJE)」の規定に基づき判断する³⁾. 例え ば、役割は、研究の構想・デザイン・立案を行った、研究 の着想と企画に実質的な貢献をした、研究方法の助言を 行った、データの収集と解析を行った、データ分析および 解釈に貢献した、論文の作成過程において、論文の構 想、デザイン、データの収集、分析、考察および解釈に おいて貢献した、論文執筆を行った、論文の主たる著者 として関与した、論文の責任指導者として関与した、デー タ収集と論文執筆の指導をした、執筆にあたり主要な指導 的役割を担った、執筆指導に際し共著者間の見解の調整 を行った、論文の知的内容に関わる批判的校閲に関与し た、症例の知的内容に関する校閲に貢献した、筆頭著者 を指導し論文作成に関わる批判的校閲に関与した、論文 の責任指導者として本稿の作成に関与したなどが用いら れる.

ICMJEでは著者資格の基準として以下の4項目すべて を満たすことを挙げている:①研究の構想もしくはデザイン について、または研究データの入手、分析、もしくは解釈 について実質的な貢献をする、②原稿の起草または重要な知的内容に関わる批判的な推敲に関与する、③出版原稿の最終確認をする、④研究のいかなる部分についても、正確性あるいは公正性に関する疑問が適切に調査され、解決されるようにし、研究のすべての側面について説明責任があることに同意する(日本医学会・医学雑誌編集ガイドラインより).

14. チェックリストについて

各項目をチェックした後、チェックした年月日と筆頭著者氏名と論文責任者氏名の署名を記載する。筆頭著者が論文責任者を兼ねる場合もあるが、その際は筆頭著者以外にもう一名論文責任者を記載することとする。

15. 投稿前にするべきこと

共著者に論文を批判的に読んでもらい、評価を受け、 慎重に推敲を重ねることが大切である。一人で書いた論 文は、議論が偏る、必要な事柄が抜ける、誤記がある、 意味が分かりにくいなどの問題を残すことが多々ある。

また論文責任者は筆頭者以上に投稿論文(の内容)に 対する責任があり、論文責任者には論文投稿を行う前に 必ず最終チェックを行う.

投稿前にチェックリストを再度1つ1つ確認する. 問題ないと思っていても、結果として自身の思い込みに過ぎず間違っている場合があるのが人間である. よって、論文執筆中にも繰り返しチェックリストを確認することを薦める. 体裁が整っていない論文は基本的に内容も整っていないことが多い. 内容はもちろんのことであるが、査読者が論文の内容に集中して評価を進められるように、最低限体裁をきちんと整えることは、投稿者として示すべき礼儀である.

16. 査読の方針

本誌の査読にあたっては、教育的なことを配慮し、丁寧にアドバイス、受理にもっていくこと基本方針としている。さらに、将来、英文雑誌にも日本の小児泌尿器科分野からの投稿がより増えることを望んでいる。その際の登竜門となることを期待している。

査読の過程

本誌は、編集委員会が論文に目を通し、適切だと考えるその分野のエキスパートの専門家に査読を依頼しているが、査読協力はあくまでもボランティアである。査読者は2名(理事・評議員もしくはその領域における専門家)に依頼し、論文を評価していただく。2名の査読者の査読評価が、「(修正の必要の有無を問わず)掲載可能」と「掲載不適当」に分かれた場合は、第3の査読者の評価によって掲載、不掲載が決定される。また、査読者のコメント以外に編集員会として投稿論文に修正や過失が必要と判断された場合、編集委員会から投稿論文に対しコメントをすることがあり、それに対しても筆頭者は併せて回答する。

査読者(および編集委員会)への返事

「修正を要す」の評価であれば、査読者の意見をよく吟味して、1つ1つ丁寧に誠実に答えることで、論文受理につながる確率が高まる。著者の思い入れが強い場合、査読者の意見が受け入れられないように感じることがある。しかし、今一度冷静にその意見を吟味し熟考すれば、その通りだと考えられることが多い。共著者とも議論することが求められ、そうすることにより査の意見に対する適切な回答が導き出される可能性が高まる。投稿者にとって、査読者の意見は、時に厳しいと感じることもあるだろう。ただ、査読者は投稿された論文がどのようになれば学術論文として掲載に値する論文になるかとの視点からの意見やアドバイスを伝えている。投稿者がその認識を持てば、査読者の意見に一喜一憂することはなくなるだろう。

査読者は、著者よりもはるかに多くの知識や多彩な考えを持っていることが多い。査読者の意見には、最大限の尊敬の気持ちをもって忠実かつ真摯に対応することが重要である¹²⁾.ただ、査読者も人間である。時には、論文の主旨を間違えてとらえている、また、実際に書いてあるにもかかわらず、「書いていない」などと評価をすることもある。その時には、主旨が曖昧で伝わっていない可能性も考え、より明確な論理の通った文章に改訂し、間違えて解釈されないように書き直すことが求められる。また、実際に書いてあるのに書いていないと評価された場合は、書いてある箇所を伝え、より分かりやすいように書き直したというような形で返事をするとよい。

最後に

医学雑誌の編集は、編集長、編集委員、査読者、そして著者による共同作業である¹³⁾. 本稿やチェックリストを活用することにより、より価値ある論文が本誌に掲載されれば幸いである.

引用文献

- 1) 日本小児救急医学会雑誌編集委員. "日本小児救急 医学会雑誌へ論文投稿する人のために(Ver.2)" https: //www.convention-axcess.com/jsep/information/ post_magazine.htm, (参照2024-5-13)
- 2) 西山和孝, 長村敏生, 阿部世紀, 他: 論文作成の ための指針作成の経緯について. 日小児救急医会誌 2020:19:202-218.
- 3) 医学雑誌編集者国際委員会. "医学雑誌掲載のため の学術研究の実施,報告,編集,および出版に関す る 勧 告". https://honyakucenter.jp/assets/pdf/ ICMJE_Recommendations_2017.pdf, (参照2024-5-13)
- 4) RAディ、Bガステル、美宅茂樹(訳):世界に通じる 科学英語論文の書き方執筆・投稿・査読・発表. 初版、丸善、東京、2010.
- 5) 森本 剛: 査読者が教える採用される医学論文の書き方. 初版,中山書店,東京,2013.
- 6) 細野茂春: 査読者が伝授する論文投稿・査読のコツ. 初版, MCメディカ出版, 大阪, 2017.

- 7) アメリカ心理学会,前田樹海(訳),江藤裕之(訳),田中建彦(訳): APA論文作成マニュアル. 第2版, 医学書院,東京,2011.
- 8) 中村好一:基礎から学ぶ楽しい学会発表・論文執 筆. 初版, 医学書院, 東京, 2013.
- 9) 松原茂樹, 大口昭英, 名郷直樹, 他:臨床研究と論 文作成のコツ読む・研究する・書く. 初版, 東京医学社, 東京, 2011.
- 10) 吉村由梨: 現場発管理栄養士のための臨床研究 Tips(第5回)症例報告のススメー例報告も英語で論文 化できる!執筆のポイント(2). 臨床栄養 2019;135: 831-835.
- 11) 松原茂樹: 論文作成ABC: うまいケースレポート作成のコツ. 初版, 東京医学社, 東京, 2014.
- 12)山本俊至, 林雅晴:論文査読の心得. 脳と発達 2019;51:401-408.
- 13) 真部 淳. "査読者の心得". 日本小児科学会ホームページ. https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/PI_kokoroe.pdf, (参照2024-5-13)

2024年5月13日